

6. 事業内容	<u>(キーティチャー研修) までの活動</u> 1. <u>キーティチャー育成研修の準備 (2016 年 3 月 1 日から 2015 年 6 月 26 日)</u> <u>ベトナム当局との手続き</u> ラムドン省でラムドン省及びドンナイ省のキーティチャー60 名に対して 2 週間研修を実施し、2 名の日本人が研修講師を務める。また、活動の開始にあたりラムドン省やドンナイ省の人民委員会との調整手続きを行う。 <u>キーティチャー育成研修の準備</u> アジア・レインボーは各省教育局が、研修場所、研修日程、研修予算について調整し、日本人専門家と検討した上で研修内容を定める。アジア・レインボーがベトナム人講師を選定し、各講師の講義内容に合わせて、研修の教材や研修テキスト、講義内容を準備する。また、日本人専門家の講義内容を 2 名のベトナム人専門家が翻訳する。 2. <u>キーティチャーの育成 (各地区の指導者研修)</u> ① ラムドン省のキーティチャーに対する中級障害児教育研修 ② ドンナイ省のキーティチャーに対する上級障害児教育研修 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム (日本人 4 人を含む) が、2016 年 7 月に、①ラムドン省の 30 名のキーティチャー (※ 1) (知的障害児教育 A 15 名、知的障害児教育 B 15 名) に対して、それぞれ 1 回 2 週間、中級障害児教育研修を実施する。②ドンナイ省の 30 名のキーティチャー (知的障害児教育 15 名、聴覚障害児教育 15 名) に対して、それぞれ 1 回 2 週間、上級障害児教育研修を実施する。研修でキーティチャーは、教師や障害ある児童の保護者に対するカウンセリング方法についても学習する。また、障害ある児童に対してチェックリストを作成し、簡易なアセスメントが出来る演習も実施する。ラムドン省の各地区 (全 12 地区) 及びドンナイ省の各地区 (全 11 地区) に、それぞれ数名のインクルージョン教育 (※ 2) 専門キーティチャーを育成する。今年度は最終年度であることから、2 週間研修のうち半分以上は、キーティチャーによる模擬授業を実施して、キーティチャーの現場における実践的なスキルを高める。 ※ 1 : キーティチャーとは、省におけるインクルージョン教育推進の核となるインクルージョン教育の専門家の事である。 ※ 2 : インクルージョン教育というのは、一人一人のニーズに応じた教育を展開することで、障害ある児童も含めた一人一人違っている子どもを一人残らず包み込む (include) 教育システムを構築することである。 アジア・レインボーの 4 名の日本人専門家や 10 名の研修講師が、研修後も対象 60 名のキーティチャーの相談に対応できる体制は整っている。対象 60 名のキーティチャーは、専門家からアドバイスを受けて研修後の 9 月から次年時の 2 月まで、各地区で研修を実施したり、各小学校での研修を支援しながら、現場で問題意識と対応スキルを高めていく。 3. <u>各小学校の校内指導教師研修</u> 当会が結成したホーチミン市の障害児教育専門家チームが、ドンナイ省とラムドン
---------	---

省の対象校において、校内指導教師を対象にインクルージョン教育 3 日間研修を 3 回実施する。(各省 300 校の小学校を対象とし、3 年間で 1200 人の教師に 3 日間研修を実施する。できるだけ多くの教師の参加を目的とするため、3 年間で 1 人 1 回の参加を原則とする。)

4. 各地区の地区内研修 (ドンナイ省教育局、ラムドン省教育局の費用負担、アジア・レインボーの専門家による適時の支援)

ドンナイ省とラムドン省では、各地区において数名のキーティチャーが障害ある児童を受け持つすべての教師に対して、1 回(8 月～10 月)から 2 回(2 月～3 月)の研修を実施する。各地区内研修は、各省教育局の予算で実施しているが、2015 年度よりアジア・レインボーの専門家も参加して、キーティチャーや、現場教師の支援を行っている。2016 年度もアジア・レインボーの専門家が各地区の研修に参加して研修の支援を行う。

5. 各小学校の校内研修 (ドンナイ省教育局、ラムドン省教育局の費用負担、アジア・レインボーの専門家による適時の支援)

ドンナイ省とラムドン省の各小学校では、専門家により育成された校内指導教師やキーティチャーが、障害ある児童を受け持つすべての教師に対して、定期的に研修を実施する。

6. インクルージョン教育のマニュアルの作成・発行

現在作成のマニュアルは 2016 年 2 月に各地区に配布予定で、同マニュアルに対して、現場の教師から直接に意見を聞く。

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	(1) これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） <u>キーティチャーの育成研修（各地区の指導者研修）2015 年の活動が終了した。</u> 研修実施期間：6 月 29 日（月）～ 7 月 10 日（金） 研修実施場所：Doan Thi Diem 小学校 2 番 Nam Ky Khoi Nghia 通り、1 町、Da Lat 市—Lam Dong 省 <u>実施内容 1：</u> ラムドン省のキーティチャーに対する中級障害児教育研修 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム（日本人 4 名を含む）が、ラムドン省の 30 名のキーティチャーに対して、中級障害児教育 2 週間研修を実施した。（別添 1-1、1-2、2-1、2-2 参照） 知的障害児教育研修 A 15 名 知的障害児教育研修 B 15 名 * ラムドン省は、地区内のほとんどの障害ある児童が知的に障害ある児童であるため、キーティチャーの希望により、聴覚障害児教育研修をやめて、知的障害児教育研修に変更した。 <u>成果：</u> 7 月に研修を受けた 30 名のキーティチャーは、9 月 29 日から 10 月 2 日まで、全 12 地区で、地区内の教師に対してインクルージョン教育研修を実施した。地区研修を受けた教師は、インクルージョンクラスの様々な問題を克服でき、よりよいクラス授業ができるようになった。以下は地区研修に参加した教師の感想例である。 ① 地区研修前から IEP（個別教育計画書）の事は知っていたけど、よくわからなかった。研修後、IEP の作成がよく理解できて、障害ある児童に教える事ができた。現在は、自身の学校で障害ある児童を担当する同僚にアドバイスもしている。 ② 地区研修後、すぐ自身の小学校の教師のための研修を実施した。参加者は 10 名であったが校内では研修の成果は出ている。校内研修前、教師たちは、障害ある児童とない児童に同じカリキュラムを教えていた。校内研修後は、障害ある児童とない児童の異なるニーズに合わせて、違うカリキュラムで教えている。校内研修を受けた教師は IEP（個別教育計画書）を作成するようになった。 ③ 地区研修前は、障害ある児童にも普通のカリキュラムを教えていて、評価も普通の児童と同じものを使っていた。地区研修後、カリキュラムと評価を変更した。現在は IEP を作成して、同 IEP に基づいて教えている。研修前は、「なぜ、私が障害ある児童を教えるのか」と理解できず、反対していた。しかし、研修を通じて IEP を習ってから、今はストレスなく教えることができたので、不満はなくなった。 <u>実施内容 2：</u> ドンナイ省のキーティチャーに対する上級障害児教育研修 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム（日本人 4 名を含む）が、ドンナイ省の 31 名のキーティチャーに対して、上級障害児教育 2 週間研修を実施した。（別添 1-3、1-4、2-3、2-4 参照） 知的障害児教育研修 16 名 聴覚障害児教育研修 15 名
--------------------------------	--

成果： 7月に研修を受けた30名のキーティチャーは、8月から10月まで、全11地区で、地区内の教師に対してインクルージョン教育研修を実施した。地区研修を受けた教師は、インクルージョンクラスの様々な問題を克服でき、よりよいクラス授業ができるようになった。以下は地区研修に参加した教師の感想例である。

- ① 地区研修後、児童のレベルに合わせて教える事ができるようになったので、ストレスは大変軽減された。また、同僚とお互いのクラスを見学し合い、相談もできるようになった。
- ② 地区研修後、インクルージョンクラスについての教え方が良くなった。具体的には、a. 障害ある児童は友達とよく遊ぶようになった。b. 障害ある児童は学校の規則を良く理解できるようになった。c. 学習面では、個人差はあるが理解できるようになった。地区研修を実施する前、クラスで障害ある児童は、ただ座っているだけであった。今は、IEP（個別教育計画書）に沿った教育活動を行っているため、障害ある児童は自分のペースで学習できるようになった。
- ③ 地区研修を受ける前は、a. 障害についての理解がほとんどなかったので障害ある児童に関心が持てなかった。b. 障害ある児童と何も話さないなどの問題があった。地区研修後では、a. 障害についての理解が深まり、障害ある児童に関心をもつようになった。b. 障害ある児童は言いたい事が言えるようになった。例えば、クラスで、障害ある児童でも回答できる質問をすることにより、障害ある児童の発言機会をふやすようになった。

(2) これまでの事業を通じての課題・問題点とその対応策

<ラムドン省>

問題点：

障害ある児童の両親は、児童の教育に期待をもてなく、児童の学習や将来に不安を抱えている。

対応策：

- ① 各小学校にインクルージョン教育の校内委員会を設置するようにする。
- ② 2週間研修、3日間研修、地区研修で、担当の講師は、教師と障害ある児童の親との連携の重要性について説明する。また、アジア・レインボーの各地区のモニタリングの際、インタビューするすべての教師に、親とどのように連携しているのか確認する。
- ③ 障害ある児童の両親は、専門家からコンサルテーションを受けたり、キーティチャーからコンサルテーションを受ける事ができる体制を構築する。

<ドンナイ省>

問題点：

障害ある児童の両親は、両親が蒸発していたり、両親が仕事で忙しかったり、親戚や祖母に児童が育てられているケースが多い。また、両親は、文盲であったり、障害者であるケースが多い。このような家庭は大変な貧困状況であったり、家庭で障害ある児童の養育がほとんどできていない状況であったりする。

8. 期待される成果と成果を測る指標	<u>対応策</u>： 各地区内で教育室が、保健室、人民委員会、婦人団体、福祉団体、赤十字など他の団体と協力して、地区内で障害ある児童の家庭支援をしていく。地区の教育室や小学校が、地区内の住民に対してインクルージョン教育の説明会を開いていく。 <u>※退学率の減少</u>：教師は研修を受けることによって障害ある児童に対する受入れのスキルが高められ、これにより在学中の障害ある児童の学習面、生活面が改善されるため退学率や休学率が下がる。 <u>※就学率の向上</u>：現在、既にキーティチャーや教師は地区内の障害ある児童がいる家庭を訪問して、近隣の小学校への就学を勧める活動を実施している。現時点でまだ教師の障害ある児童に対する教授スキルが不十分であるため、全ての障害ある児童に対して対応できない学校もある。本事業を通して、教員のインクルージョン教育のスキルを向上し、障害ある児童の学習の向上につながる学校環境の改善を行えば、障害ある児童を通学させようとする家庭が増えるため、障害ある児童の就学率も上がる。 <ラムドン省> ① <u>就学率</u> 2015 年 10 月のラムドン省教育局の報告によると、6 歳から 14 歳までの障害ある児童の人数はおよそ 1,975 名で、現在障害ある児童の中で初等教育を受けている人数は、特別学校 137 名、インクルージョン小学校 605 名、初等教育を受けている障害ある児童は 742 名、障害ある児童が初等教育を受けている割合は、38%である。 今年度事業終了時の障害ある児童の就学率の目標値は、50%である。 ② <u>各地区のインクルージョン教育研修システム構築の達成目標は 8 項目をもって計る。(別添 3-1 参照)</u> <ドンナイ省> ① <u>就学率</u> 2015 年 1 月のドンナイ省教育局の報告によると、6 歳から 14 歳までの障害ある児童の人数はおよそ 1,212 名で、現在、障害ある児童の中で、初等教育を受けている人数は、特別学校 110 名、インクルージョン小学校 1,047 名、合計 1,157 名。およそ 95%の障害ある児童が初等教育を受けているという状況である。 今年度事業終了時は、障害ある児童の就学率の目標値は 100%である。 ② <u>各地区のインクルージョン教育研修システム構築の達成目標は 13 項目をもって計る。(別添 3-2 参照)</u>
---------------------------	--